

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 28, No. 2 神奈川県立生命の星・地球博物館 Jun. 2022



丹沢のアオサンゴ化石

Heliopora coerulea

皆瀬川

(神奈川県足柄上郡山北町人遠)

2022年2月28日 田口公則 撮影

たぐち きみのり

田口 公則(学芸員)

神奈川県を代表する化石の1つが、丹沢周辺に点在するサンゴ化石です。日本地質学会による「県の石」でも、神奈川県を象徴する化石として「丹沢層群のサンゴ化石群」が選定されました。

丹沢層群は、約1,700万年～800万年前に海で堆積した地層です。なかでも、丹沢層群本谷川層に挟まる約1,500万年前の石灰岩の中に、造礁サンゴや有孔虫類、さらにオウムガイ類の化石などが多数見つかっています。

写真は、皆瀬川で見つかった、大きさ

2 mにもなる石灰岩の転石です。この礫の一面にアオサンゴの骨格断面が模様として見えています。現生のアオサンゴは、奄美諸島以南に分布する造礁サンゴの一種です。これらのことから、1,500万年前の丹沢周辺の海は亜熱帯もしくは熱帯といった温暖な環境であったことがわかります。丹沢から見つかるサンゴ化石群は、かつて丹沢が南の海に位置していたことの証拠の一つとなっています。なお、山北町人遠の石灰岩は、天然記念物に指定されています。